



平成 29 年 9 月 26 日

各 位

会社名 日本農薬株式会社

代表者名 代表取締役社長 友井 洋介

コード番号 4997 東証第 1 部

問合せ先 執行役員管理本部総務部長 飯島 豊和

電 話 03-6361-1400

特別損失（のれんの減損損失）の計上および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 9 月期決算におきまして、「のれんの減損損失」を特別損失として計上することといたしましたのでお知らせするとともに、平成 28 年 11 月 14 日に公表した通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. のれんの減損損失について

当社が、製品ポートフォリオの拡充を目的として平成 25 年 10 月に品目買収いたしました除草剤「オルトスルフアムロン」は、主要販売国における流通在庫および競合剤供給増加の影響ならびに除草対象となる水稻作付面積の減少などから販売は伸び悩んでおり、平成 29 年度販売計画に対して販売実績が乖離しています。これに伴い、平成 29 年 9 月期にのれんの減損損失として、同剤ののれん残高全額である 548 百万円を特別損失に計上いたします。

なお、同剤については、主要市場である米国においては水稻用除草剤、ブラジルにおいてはサトウキビ用増糖剤として販売していますが、さらに同剤の他用途の開発も進めており、買収時販売計画から大幅に遅れることになりましたが、今後、各分野の販売は順次進捗する見込みであります。

2. 通期連結業績予想の修正について

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	59,500	3,900	3,600	2,200	32 円 92 銭
今回発表予想 (B)	59,500	3,100	3,300	1,350	20 円 20 銭
増減額 (B - A)	—	△800	△300	△850	
増減率 (%)	—	△20.5	△8.3	△38.6	
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 9 月期)	50,641	4,426	3,864	1,035	15 円 49 銭

3. 通期連結業績予想の修正の理由

国内農薬販売では、病害虫の小発生や過年度流通在庫の影響などから売上高が伸び悩みました。一方、海外農薬販売では、連結子会社の Sipcam Nichino Brasil S. A. および Hyderabad Chemical Pvt. Ltd. での販売が好調に推移しました。これらの結果、売上高全体では当初の予想から修正はありません。

利益面では、国内農薬販売の伸び悩みに加え、海外農薬販売の品目構成の変化などから、一般経費の削減に努めたものの営業利益および経常利益は当初の予想を下回る見込みであります。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の特別損失計上により当初の予想を下回る見込みであります。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上